

船舶投資ファンドは 大きなビジネスチャンス

—日本最大の船舶ファンド誕生—

アンカー・シップ・インベストメント(株)
辻 肇社長に聞く

本誌 まず、御社の設立の背景やねらいなどからお伺します。

◆船舶投資ファンドは ◆ビジネスチャンス

辻 ここ数年来、外航海運マーケットはかつてない活況を呈しています。それを背景に各オペレータは、船舶の大量建造を進めています。そうした環境変化の中で、船舶投資ファンドが、船舶の新しい保有形態の

一つとして、ビジネスチャンスになるのではないかと考えたからです。

従来から、日本では船舶の保有形態について、①オペレータが海外の仕組み船方式を含めて自社保有する形態、②船主が船舶を持ちオペレータに定期用船にだす形態、③オペレーティングリース（JOL）といい、節税商品を持ちたいという投資家の資金を集め、SPC（特定目的会社）を作り、そこに船を持たせ、オペレ

ータに裸用船にだし、投資家が償却メリットを享受するスキーム、の3つの形態がありました。

ここ数年の大量の船腹需要のなかで船舶供給が対応できているのは、オペレータの収益が良くなりバランスシートが改善し、自社船を持てるようになったこと、また、規模の比較的大きい船主が現れ、彼らが大型船を持ちリスクも取って、オペレータに定期用船する形をとってきてい

世界的な海運市況の活況を背景に、日本最大の船舶投資ファンドが今年1月設立された。船舶金融の世界に第4のソリューションを提供する。国内市場をターゲットに裸用船をベースとした方式が特徴。資金は投資家の自己資金と銀行ローンから調達する。1号ファンドは投資額1000億～1500億円。投資対象は新造船を中心にVLCC、大型コンテナ船など、投資期間は竣工後10年程度まで長期保有が基本。アンカー・シップ・インベストメント(株)の辻 肇社長にお聞きした。

辻 肇(つじ はじめ)

1976年4月、日本興業銀行入行。2000年9月、同行営業第七部長(海運担当)、02年4月経営統合、みずほコーポレート銀行本店営業第七部長、同行証券部長、常勤監査役、理事を経て06年7月、みずほ証券アドバイザー(船舶ファンドPT)。07年1月アンカー・シップ・インベストメント(株)代表取締役就任、現在に至る。

